

第2回岩内町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 議事録（概要版）

開催日時：平成27年12月8日（火）14:00～16:00

開催場所：岩内町役場 会議室（2F）

<次第>

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) アンケート調査結果について
 - (2) 人口ビジョンについて
 - (3) 総合戦略の策定状況について
 - (4) その他
- 3 閉会

<出席者数>

計17名

- ①委員：10名
- ②事務局：岩内町4名、道銀総研2名



1 開会

○事務局：（開会）

2 議題

（1）アンケート調査結果について

- 委員長：事務局説明をどうぞ。
- 事務局：（資料1説明）
- 委員長：それでは、資料1への意見等はどうか。
- 副委員長：住みやすさの評価割合の結果は平均的なものか。
- 事務局：同種のアンケート調査で住みやすいと評価する割合と比較して、今回のアンケート調査結果も平均的な結果である。
- 副委員長：人口減少への意識については低い結果となっているがどうか。
- 委員長：社人研の推計結果についての認知度をたずねている設問なので相当関心が高くないとあまり知らないというような回答になったのではないか。一方で、P19にあるが、人口減少するという予測に対しては、何らかの歯止めをかけるべきとの回答が多い。
この町民の考えに基づき、人口ビジョン等を検討していくことになる。これまでにこういった町民意識調査は実施しているか。
- 副委員長：総合計画策定時にアンケート調査を実施した。
- 事務局：総合計画策定時に実施したアンケート結果と今回のアンケート調査結果で、比較できる部分については、比較して整理する。
- 委員長：比較分析は必要かと思う。それでは、次の若年層向けについて意見等はいかがか。
- 委員：どのアンケートでもそうだが、正社員雇用を望む声が強い。労働力不足になりつつなる中で、企業側も正社員化は考えていかなければならない。
- 委員長：若年層は、正社員にならないと、なかなか結婚等、その後の将来まで結びつかないか。
- 委員：将来を考えるとやはり正社員になりたい人がほとんどである。

- 委員長：他地域との比較をするとどうか。
- 委員：どこの市町村でも、医療の充実、子育て支援、産科の設置は多く意見があげられている。ただ、救急等については手当てが必要。医師不足の問題もある。
新たな転入者増はなかなか難しいが、今いる町民に対しての支援が必要。子育て支援にしても、例えば保育園長や、子どもが特に冬場安心してあそべるような場づくりも必要。
- 委員：子育て環境として、岩内町は不便なこともある。住宅価格、家賃が高いことも子育て世代には問題。子育て世代は、周辺町村の経済的支援についてよく調べており、シビアに選択している。
- 委員長：世代を絞ったアンケート調査結果、意見等もみていくことは重要である。
それでは次に転入者向けアンケート調査結果についてはどうか。
- 委員：転入するにあたって、やはり仕事が必要。やりたいことと給与もあるが、このまちで何ができるか、目的も重視している。
- 委員長：転入希望者が、すでに転入した人の声を聞きたいというニーズはあるか。
- 委員：どこに住みたいというよりは、田舎に住みたいという声を聞く。そして、移住先には、仕事は必須という意見を聞く。
- 委員長：このアンケート調査結果をどのように感じたか意見等はどうか。
- 委員：沖縄の専門学校へ岩内での就職募集案内をかけたところ、5名の応募があった。田舎暮らしというものへのニーズもあるが、給与条件も必要。また冬の生活を知らなかったりするので、馴染むまで、町民たちが支援、アドバイスしていくと、転入者には心強い。
- 委員長：既に移住した人の声は知りたいのではないか。岩内町は、札幌市からの転入者が実際は多く、道内での移動がほとんど。地方から地方へ移住も多い。
- 委員：家族で来たいという移住者もいる。
- 委員長：移住者は都市からだけではなく、就職がきっかけで地方からというのものもある。
- 委員：転勤者は、原発関係、銀行、道職員がメインで、このアンケートも転勤族の意向が大きく出ているので、必ずしもこれだけではなくその他にも意見等を聞くべき。
- 委員：岩内町の良さを転勤者がきっかけで気に入っても、その後転勤で転出する。ただ、転勤で転出することになっても、岩内町の良さに気づいてくれた人が何かしらの形で情報発信や、情報交換しやすいような場づくり、機会づくり等も必要。例えば、ネット上で岩内町への移住日記が読めるようになってもいい。
- 委員長：岩内町の良さについて、広く知られていくことも大きな要素となる。
それでは次に、岩内高校の高校卒業後の進路状況等はどうか。
- 委員：今年高校卒業した生徒は約150名。就職は約60名で、そのうち町内で約20名が就職し、後志管内となると約40名。道外も多少はいるがほとんどいない。管内で働きたい生徒はいる。なお、進学は約90名で、進学先は道内が多いが、地域はばらばらである。
- 委員長：就職先は景気に左右される。
- 委員：最近では就職希望者が皆就職を実現している。札幌への就職希望もあるが、道内に残りたい、地元志向は強い。
- 委員長：大学等進学後はどうか。
- 委員：戻ってきたいという声もある。地元好きな生徒は多い。保護者の地元志向が強いので、子どもも地元志向があるのかもしれない。
- 委員：子どもの地元志向が強いが、保護者のなかには医療も生活利便性も良い都会に、子どもには住んでもらいたいと思っている人もいる。いずれは子どものいる都会へという意識もある。子どもに頼るというわけではないが、現実的に病院に行くことを考えると、いずれは札幌で老後を過ごすための準備をしている人がいる。
- 委員長：何もしなければ、そういった人がもっと増えて、ある時、急に人口減少する可能性もでてくる。
- 委員：実際に、身近な人で介護が必要になった人がいたが、札幌につれていった。やはり仕事の関係もでてくる。
- 委員：介護のために、岩内町に戻ってくることは厳しい。
- 委員長：次に交通関係についてはどうか。
- 委員：田舎の人間はドアトゥドアで車を使う。行政面積が小さいが歩かないで車を使っている。高齢者になると車の運転が厳しくなって不便ではないかという話もでてくるが、行政面積の小さい町なので一部の地域を除き基本的には、まちなかまで歩いていくことはできる。
- 委員長：高速道路、新幹線に関する設問をアンケートで設けたと思うがその回答結果はどうだったか。

- 事務局：(資料説明)
- 委員長：それでは次の議題に移る。

(2) 人口ビジョンについて、(3) 総合戦略の策定状況について

- 事務局：(資料2、3説明)
- 委員長：町の方から補足等はあるか。
- 事務局：これから庁舎の内部でも検討して、追加修正していく。先週庁舎内の組織で地方創生推進本部という組織があるが、こちらでも検討している。年内に具体的な施策を取りまとめる予定で、その結果を、また戦略に反映したものを、次回の推進委員会の場で皆様に御説明したい。
北海道新幹線の開通、高速道路の延伸は、将来、町にとってもプラスの要素である。そういうプラスの要素も戦略に反映できないか検討していきたい。
- 委員：効果が管内全市町村に及ぶようなもの、道と市町村と一緒に進めたほうがより効果的になるような施策については、一緒に事業を連携して進めていく。国の交付金の申請についても一緒に行うというようなことも考えていこうと思っている。
岩内町の産業は何か。何でやっていくか。見極めるべき。既存で頑張っている企業を徹底的に支援すること、絞り込みも必要。
- 委員長：今後の検討の視点、委員の皆様の考えをぜひ強く反映させたいと思うので、意見を寄せていただきたい。3月には最終的な形にしていくが、皆様の意見を盛り込みつついき、つくったが、あれはどうなったのかというようなことにならないようにしたい。
- 委員：新幹線、高速道路延伸には期待はしているが、延伸により例えば、もしかすると札幌から通いの医者になるかもしれない、買い物もどんどん札幌に行ってしまうかもしれない。札幌から通勤してくるようになるかもしれない等、ストロー現象が起こるのではないかと。戦略は難しいが、じっくり考えて、初年度からいきなり始めるというのは難しいが、これは5年間続くものなので、少しずつでもやっていくべき。
- 委員長：P18以降についてはどうか。
- 委員：目標値③は簡単な数値ではない。方向性という意味では、挑戦という意味ではいい。
連携もいいが、責任の所在がはっきりしない。調整は難しい。同じ意識をもって方向性も同じということと考えると、観光振興ならベクトルは一緒にやりやすいかもしれない。ただ、施策の効果測定は広域連携なので出にくい。広域といってもエリアの見極めも必要。
転入アンケートだが、買い物の不便さ、利便さ両方あげられていた。利便性を求め大型郊外店を誘致するということは、既存の商店街への影響もあるということを含めて考えるべき。企業誘致もいいが、景気が悪くなった場合等にはすぐに撤退する。その影響も検討すべき。
- 委員長：岩内での生活が不便、不便ではないという人がいて、人それぞれはイメージする基準が違う。その視点で解釈しないと、場合によってはミスリードする可能性もあるかもしれない。
産学官というか、民間事業者、金融機関のいろいろな知恵もいただき、地域内での新しい起業、あるいは創業は、無視できない大きな要素。こういう方法であればもっと応援しやすいといった考え、指摘等も、頂きながら取りまとめたい。
全体通じてどうか。よろしいか。

(4) その他

- 委員長：次回は1月最終週、2月上旬を予定している。後日日程調整をさせていただくこととなる。
なお、今後岩内高校でのまちづくりワークショップを検討している。
- 事務局：委員からの資料報告がある。
- 委員：(ふるさと企業大賞受賞について説明)

3 閉会

○委員長：(閉会)

以上